

不連続 「頑張れ花子！」小説

第一話

2児の母である花子(三十九歳、仮名)は、
六歳の長男、タダシと、
三歳の長女、ミサトの育児に追われ、??
毎日忙しい日々を送っています。

或る冬の日、
タダシがインフルエンザに罹ってしまいました。

花子は
「ミサトにうつさないようにしなきゃ！」
と強く思いました。

「感染予防の基本は、手洗いやね！」

どこかで耳にした文言を思い出した花子は、
せっせと手洗いをしました。
一日に何度も何度も手洗いをしました。

頭の中では、「あらいくまラスカル」のテーマ曲が鳴り響いています。

食事の前やトイレの後はもちろん、
買い物から帰ってきた時など、何度も何度も・・・手洗いをしました。

「咳エチケットも大事よ！」

自分が咳やくしゃみをした後はもちろん、
鼻をグズグズさせているのに鼻をかもうとしないタダシに・・・
ちよっと無理やり鼻をかませて・・・

そのティッシュを捨てた後にも手洗いをしました。

もちろん、ミサトに触れる前にも・・・

手を洗うことで、タダシやミサトを待たせ、時には、泣かせてしまうこともありました。

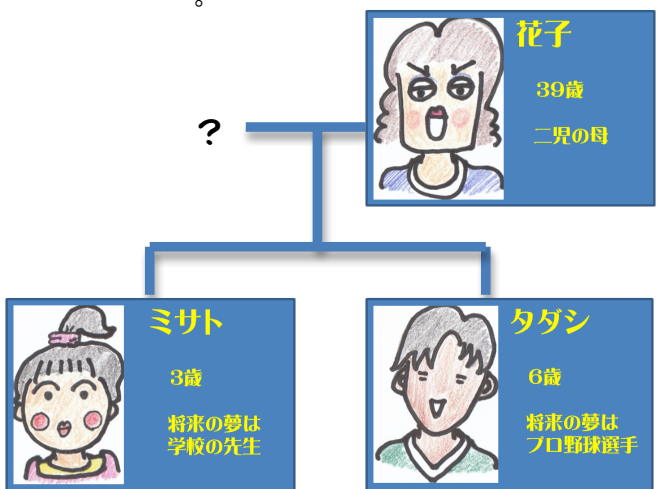


花子はそれでも・・・

「ミサトにうつさないようにしっかりと自分が手洗いしなくちゃ」と頑張りました。

花子の頑張りもあってか、
インフルエンザがミサトにうつることはありませんでした。

「よかったあゝ、やっぱり手洗いって大事なのよね！」



手洗いの大切さを実感した花子でした。が、・・・

ふと、

自分の手を見ると・・・

「手、手が・・・」



茫然と自分の手を見つめる花子。

何度も何度も・・・手を洗った花子の手は、赤みを帯びてガサガサ、指先にはヒビ割れが！

「誰かっつ、助けてく。」

つづく・・・